

# 琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係

沖縄復帰記念式典(3) (アグニュー副大統領関係)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43581">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43581</a>

在米大來往電

( 部の内 号)

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

極秘

大改事外外儀官  
 務次典房  
 臣官官兼兼長長  
 儀総人電厚計  
 書文会管給

調査長  
 参企折調  
 参領旅査移

参地中東  
 長北東西  
 参北北保  
 中南  
 参一  
 参西東洋  
 長西東

参書近ア  
 長次総経国資源  
 参質統国  
 経協長  
 参政技一理  
 国企二  
 参条協規  
 長参政経科  
 参事社專  
 情長参道内外  
 参一

電信写

総番号(TA) 10070  
 72年4月3日21時20分 米 国 発  
 72年4月4日11時59分 本 省 着

外務大臣殿 午場 大使 臨時代理大使 総領事 代理  
 ジョーンソン国務次官との会談

第1330号 極秘 至急

3日本使は発病以来2ヶ月経過したジョーンソン国務次官を自たくに往訪したが、同日い師のしん断によれば来週より毎日4時間、再来週より毎日8時間の執務を許され、あと4ヶ月で完全に正常に復する見込とのことで元気に見受けられた。1時間余こん談中同次官の述べたところ次の通り。

1. キッシンジャーの訪日はインガソル新大使直後に行なわれることになったが、新大使の今後の活動のためにも、また国務省に対する関係からも、東京における例えば貴大臣によるキッシンジャー招えんの際にはぜひ新大使をも招いていただきたい。この点は特にお願いする。キに対しては、このことは通じておく心算である。(本使よりもぜひお願いしたい。)

2. オキナワ返かん記念式典にはロジャーズ長官はちよ度度そのころ大統領訪に先立ちNATO諸国を歴訪せねばならぬ(ドイツ、イタリーの政情のため訪問の日程が極め

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

て限られざるを得ない)ので出席出来ない。よつて目下ア  
 グニエー副大統領派遣を大統領に進言しており、ぜひ実現  
 したいと思う。(万一副大統領が出席できない場合につき  
 質問があつたので、コナリ一長官ならよかろうと答えてお  
 いた。)  
 3. マイヤー前大使は国務省で引続き働くことは確実であ  
 る。目下2-3のポストを考えている。  
 (了)

外務省

( 部の内 号) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大臣官審審長長  
儀総人電厚計  
書文会營給

調査長  
領移長

ア 参地中東  
長 北東西  
米 参北保  
中南番  
参一  
西東洋  
西東  
長

近ア長  
経 次総経国資  
長 参質統国  
経協長条 参政技一理  
長 参条協規  
国 参政経科  
情 軍社專  
長 参道内外  
文 参一

総番号(TA) 17294 主管  
72年 月 05日 20時 00分 米 省 発 長  
72年 4月 06日 10時 54分 本 省 着 長

外務大臣殿 米場(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ返かん式米側出席者

第1365号 極秘 至急(ゆう先処理)

(限定配布)

往電第1330号に關し

15日往訪せるムラタに対し、エリクソン部長は次のとおり述べた。

(1) 本件返かん式に出席する米政府代表はアグニュー副大統領とすることに内定を見た。ただし随員及び議会関係者のお振れはなお未定である。

(2) 本件の発表は近く(いずれにせよキッシンジャーの訪日より前に)行われる予定であるが、(イ)日程、(ロ)随行者、(ハ)オキナワ式典へも参加するか否か、(ニ)日本以外の国へも赴くか否か等の点がなお検討されているので、発表の日取りについて申上げる段階がない。これから検討が進み次第発表振りについて日本側と連絡いたしたい。

(3) アグニュー副大統領は大統領の訪ソに關する最終打合せに参加することを予定されおる関係もあり、大統領の

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

訪ソ出発の数日前にワシントンへ帰着する必要があるのでは日本滞在は二はく程度とせざるを得ないのではないかと  
思う。

(4) 第三国及びオキナワ訪問は第一義的には上述のタイトな日程との関連の問題があるが、國務省日本関係者としてはこの際は副大統領は日本以外の国は訪問すべきでないとの意見を具申している。またオキナワ訪問についても諸般の考慮を総合すればこれを見送る方がよいのではないかと意見が強い。(ムラタより第三国としてどの国を考えているかと質問したのに対して「ニ」は絶対に台湾ではないと答えるのみで明言を避けたが、若干の問答をしてみた結果、目下の戦況如何によつてはサイゴン立寄りを考えているのではないかと印象を得た。またオキナワ立寄りについて「エ」はオキナワ現地の複雑な情勢に加えオキナワは台湾に近すぎるという点をも米國としては考慮せざるをえないとコメントしていた。)

(5) 本件は内定したといつても、なお流動的な点もあるので、日本側が早期発表を望まれる理由はわかるが、絶対にもれないように配慮願いたい。

2) なお、4日、グリーン國務次官補はオオカワラに対しアグニュー副大統領派遣のラインでホワイト・ハウスへ意見具申しているとのべたので、オオカワラより副大統領を

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

公費扱いにするか否かの問題が生ずべしと述べたところの「グ」はもし公費としていただければホワイテ・ハウス等はこれを多とするであろうと述べ、また、その場合のしゆくしや等日本側の受入れ体制如何に関心を示した経緯がある。

3については副大統領の訪日を前提としたわが方の受入れ体制及び本件の発表振りにつきとりあえずの貴見なりとも回電ありたく、これに基づき、さらに米側と内々の打合せを進めることと致したい。

(了)

(回電番号) 外務省電信案 (分類)		
機密 (極秘) の大印) 無期限	符号表示 略 平	総第 0407 199-001 号
部の内 号	第 831 号	昭和 47.4.7 20.17
YYYYYY	大至急 (至急・普通・LTF)	発電係
大臣 三浦 承 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長 官房総務参事官	主管 アメリカ局長 参事官 北米才一課長 儀典長 儀典官 会計課長	主管局部課(室)名 P411局長 起案 昭和 年 月 日 47 4 6 起案者 電話番号 2464
在 米 牛場 (大使) 臨時代理大使 総領事 代理	あて 福田 大臣 発	
電 在 大使 臨時代理大使 報 総領事 代理	あて	
件名 沖縄復帰記念式典米側出席者		
[限定配布]		
貴電中1365号に因り		
当分のためが気休めの旨次々とありつき		
際々米側へ申し入れの上、結果至急回		
電ありたい。		

(※印内は電信添記入)

(昭和四二七一改正)

1. プクニ副大統領の訪日の内容をめいたこと  
 については、我が国としても大いに歓迎することであり、  
 沖縄復帰を祝う式典に同副大統領の列席する<sup>駐在にのみならず</sup>ことは、極めて意義深いことと承  
 之り次第である。我が国としては同副大統領  
 の訪日が有意義なものと存するよう鋭意諸  
 般の準備を進める所存のこと、今回の訪  
 向国と日中のみとあることが日米関係の  
 重要性を示唆するものとして高く評価  
 され、予て思料するもので、~~米側にお~~  
~~て~~ 国務省の意見も申すところ、実現すべ  
 きことを強く要請する。(特にグアタマ  
 立寄りは、グアタマ問題に關する日中国民  
 の感情にもかんがみ、訪日の意義を大く  
 せよなる結果となることが懸念される。)

~~1. プクニ副大統領の訪日の内容をめいたこと~~  
~~については、我が国としても大いに歓迎することであり、~~  
~~沖縄復帰を祝う式典に同副大統領の列席する~~  
~~ことは、極めて意義深いことと承~~  
~~之り次第である。我が国としては同副大統領~~  
~~の訪日が有意義なものと存するよう鋭意諸~~  
~~般の準備を進める所存のこと、今回の訪~~  
~~向国と日中のみとあることが日米関係の~~  
~~重要性を示唆するものとして高く評価~~  
~~され、予て思料するもので、~~  
~~米側にお~~  
~~て~~ 国務省の意見も申すところ、実現すべ

2. 沖縄訪向については、治安上の問題  
 があること及び当方としても感知なるとしてあ  
 るので、滞坂の事情に於いて同地訪向が無  
 理であることは止むを得ないものと承之り。

3. 詳細の発表は無理としても、プクニ副  
 大統領(夫人同伴の場合は同副大統領夫妻)  
 が今月15日の沖縄復帰記念式典に列席  
 したことは日中政府の招待に於いて訪日すること

簡単な発表も存するに(トキロ) ~~24日~~ 今週末(七)に行きたい。

4. 我方としては、同副大統領 (或は同副大統領夫妻) と国賓及び公賓の接遇基準 (45年4月執務提要85ページ参照) に従い (相応しい経過) (考慮した) も含み、 (国賓) への接遇を (海軍中の御都合を伺い) 用意のあるところ、 (この点については今後 約1週間と必要と見做す) の場合密議決定する必要がある。 (手) 右接遇振付も含めて発表するとすれば、 (この都合上、未開中の清多を昭明 (昭文) 同日前後) に発表することが清多にと奉之らる。

米側参加者 (同行者) が多い場合、前記規準との関連もあり全員を随員と見做すにはゆがみがあるので、2つのグループに分けておきたいと奉之らるが、 我方として

は有力議員等についても 簿記式冊に 参列可能な未定であり、 (滞在費等の支弁負担につき 前記に奉之) たい意向である。

合、留保、

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

電信課長 機密 (極秘) 印 無期限 部の内 号 YYY YYY Y	符号表示 略 平 第 800 号	総第 0408 182-00 号 昭和 47 年 4 月 8 日 18 時 13 分	大至急 至急 普通 LTP 発電係 W	※印内は電信課記入
大臣 政務次官 事務次官 法制外務審議官 企画外務審議官 官房長 協議先 官房総務参事官	主管 アメリカ局長 参事官 北米第一課長	主管局部課(室)名 米川局長 起案 昭和 47 年 4 月 8 日 提案者 佐藤 2464 電話番号	特報文化局長 報道課長	儀典長 儀典官
在米中場 総領事	大使 臨時代理大使 代理	あて 福田 大臣 発 代理	電報 臨時代理大使 代理	件名 沖繩返還記念式典米側出席者
[限定配布] 貴電 1415 号 1 周 2 1. 我方としてはできるだけ速やかに発表されることを希望するが、今週末の発表が無理であれば、冒頭貴電のとおり、現地時間 10 日午前 11 時に				

2

発表はなるべく米側に申し込ませよう  
 結果回電をしたい。米側が台時の発表に  
 関心がある  
 我方においては、現地時間 10 日夕刻前記  
 時間(現地時間 11 日午前 1 時)のインバーター  
 付きで発表し、11 日閣議において本大臣より  
 Pがニ副大統領一行の訪日につき簡単な  
 報告を行うこととしたい。  
 2. 発表材料については日米双方において P  
 がニ副大統領の訪日に関する情報はなく、冒頭貴電米側  
 発表文案に異存はない。  
 我方においては、往電米局番 831 号の程度  
 の簡単な発表を行うことと承えている。  
 (5)



( 部の内 号) 注意

大改専外外儀  
務務典房  
次次  
臣官官審審長長  
臣官官審審長長  
電電厚計  
書文会營給

電信写

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

総番号(TA) 17741  
 72年 月 8日 19時 20分 米 国 発 米局長  
 72年 4月 9日 09時 26分 本 省 着 米局長

外務大臣殿 牛場(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ返かん式典米側参加者(発表ぶり)

第1419号 極秘 大至急

(限定配布)

貴電米局長第840号に関し

国務省日本部に連絡しおいたところ。先方よりホワイトハウス事務局とも協議したが、本件発表ぶりについては副大統領自らの意向を確かめる等の必要もあり、内容、発表時間についての決定は10日ならざるを得ない状況であり、従って日本側のエンバコ付発表も何分の連絡を行なうまで差ひかえてもらいたい旨申越した。

(了)

(深田北米1課長に連絡済9日09:50)

(注) 4/11  
 セロックスコピー寄附  
 ビ.カヒフ送付済  
 (注中)

外務省 (引用元の検閲班に) 後

調査長  
 参企析調  
 参領旅査移

ア 参地中東  
 長 北東西  
 参北北保  
 中南審  
 参二二  
 参西東洋  
 長 西東

近ア長  
 参書近ア  
 経 次総経国資源  
 長 参貿統国  
 経 参政技一理  
 協 国企二  
 長 参条協規  
 国 参政経科  
 長 参軍社專  
 情 参道内外  
 長 参一二

( 部の内 号) 注意

大改専外外儀  
務務典房  
次次  
臣官官審審長長  
臣官官審審長長  
電電厚計  
書文会營給

電信写

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

総番号(TA) 18051  
 72年 04月 10日 12時 40分 米 国 発 米局長  
 72年 04月 11日 02時 44分 本 省 着 米局長

外務大臣殿 牛場(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ返かん式典米側出席者(発表振り)

第1425号 極秘 大至急

(限定配布)

往電第1419号に関し

10日国務省日本部レヴィンよりムラタに対し、本件発表振りについてはアグニ副大統領自身が代表団の決定するまでは一切発表を行なわないよう指示したため、10日に発表が行なわれる公算はなくなり、発表が何時になるかは見通しがたなくなつた旨及び副大統領の側近が「週末副大統領は本件につきニクソン大統領とこゝろ談しており、代表団の講成等につき副大統領は個人的に強い関心をもつに至つているので、事務レベルとしては日本側の事情等を十分承知してはいるものの発表を急ぐわけに行かなくなつた」と述べている旨を連絡越した。

よつて当方より何らかの決定あり次第至急連絡ありたい旨重ねて要請しておいた。

(了)

(注) 4/11  
 深田課長へ連絡済み 06:40

(注) 4/11  
 セロックスコピー寄附  
 ビ.カヒフ  
 送付済(注中)

調査長  
 参企析調  
 参領旅査移

ア 参地中東  
 長 北東西  
 参北北保  
 中南審  
 参二二  
 参西東洋  
 長 西東

近ア長  
 参書近ア  
 経 次総経国資源  
 長 参貿統国  
 経 参政技一理  
 協 国企二  
 長 参条協規  
 国 参政経科  
 長 参軍社專  
 情 参道内外  
 長 参一二

外務省

( 部の内 号 ) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政博外外儀官  
務務 典房  
次次 典房  
臣官官審審長長  
(機)人電厚計  
書文会営給

調査長 参企析調  
領移長 参領旅査移

ア 参地中東  
長 北東西  
参北北保  
中南審一  
吹 参西東洋  
長 西東

近ア 参書近ア  
長経 次総経国資  
長経 参貿統国  
協長 参政技一理  
長条 参条協規  
国 参政経科  
長軍 参軍社專  
長道 参道内外  
長文 参一

総番号(TA) 18573 主管  
72年 4月 13日 8時 57分 米 国 発 米局長  
72年 4月 12日 8時 20分 本 省 着

外務大臣殿 米場大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ返かん式典米側出席者

第1455号 極秘 至急

(限定配布)

往電第1419号に関し

12日国務省日本部レヴィンより、副大統領の訪日については副大統領自ら及び、そのスタッフが人選、旅程等について直接検討している状況のため、なお発表を行いうる段階にないので、とりあえずお知らせする旨連絡越した。

(了)

外務省

極秘

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

機密表示(極秘・秘の朱印)	符号表示 暗 略 平	総第 0413 149 号
※ 第 866 号	※ 昭和 年 月 日 時 分 発	47.4.13 21.21
大至急・至急・普通・LTF	発電係	

大 政務次官 政 事務次官 外務審議官 外務審議官 官 房一長	主管 アメリカ局長 参事官 北米オ一課長	主管局部課(室)名 米北1. 提案 昭和 年 月 日 47 4 13 起案者 電話番号 天+I 2466
---	-------------------------------	---

協議先  
米 儀費方

在 米 牛 場 大使 臨時代理大使  
総領事 代理 外務 大臣 発

電 在 大使 臨時代理大使  
報 在 総領事 代理 あり

件名  
沖繩返還式典米側出席者

省電第1455号に関し

参事ホテル予りの都合もあり、次の通り  
5月中旬にホテルの予約を早急に手配する必要があること。  
いっすとりあえざるの感用をとりとも米側には

打診 結果至急 回電あり。い。

の上

写 済

(※印刷内は電信記載)

(昭和四二七一改正)

GB-1

の宿泊先は

- 副大統領は滞日中、在京米大使の邸に  
住居を設ける。  
~~宿泊先は、それと異なる。~~
- 副大統領一行の人数(出来得れば各主  
要メンバーの滞日先)
- 滞日期間  
東京着と東京発の予定日

(3)

GB-3

外務省

( ) 部の内 (号) 注意

第1号 次中候選官  
秘字(物)

極秘

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

大改事外外儀官  
務務典房  
次次典房  
臣官官審審長長  
儀総人電厚計  
書文会營給

電信写

総番号(TA) 18809 主管  
72年 月 / 3日 20時20分 米国 発米北1  
72年 4月 / 4日 10時46分 本省 着米北1

外務大臣殿 牛場(大使)臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ返かん式典米側出席者

第1485号 極秘 至急(ゆう先処理)

貴電米北/第866号に關し

冒頭貴電/2.3.の諸点については暫定的なりとも何分のぞわが方へ連絡するよう申し入れ済なるも、米側は目下副大統領がこれら諸点を検討中であるのみならず最終的には大統領と再度打合せる見通しにつき、これら諸点については何らかの結論がでるのもまた本件発表も大統領のカナダ訪問終了後(従つて早くて7日以降)とならざるをえず感觸すら連絡しうる状況にないのを承ありたいとしている。

(了)

調査長  
参企析調  
参領旅査移

ア 参地中東  
長 北東西  
米 参北北保  
中 参一二  
南 参西東洋  
審 参西東  
欧 長

近 参書近ア  
了 次総経国資源  
長 参質統国  
経 参政技一理  
協 参政一理  
長 参政一理  
協 参政一理  
長 参政一理  
国 参政一理  
参 参政一理  
道 参政一理  
内 参政一理  
外 参政一理

外務省

4/18、他省へは (注) 4/20式典準備が済んだ  
 際、深田課長より披露の  
 注意 244しん。

電信写

総番号(TA) 19339 主管  
 72年4月17日 18時50分 米 国 発 着  
 72年4月18日 08時53分 本 省 着 米北1

外務大臣殿 牛場(大) 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ返かん記念式典米側出席者

第15/4号 略 大至急

往電第1485号に關し

1/7日国務省エリクソンより、東京において外務省へ正式に通報するよう訓令済みなるもお知らせすると前置きして、(1)式典へのアグニュー副大統領の出席が公式に決定された(2)代表代理はインガーソル大使及びランパート高等弁務官の2名であり、議会関係の参加は取止めとなつた(3)アグニュー夫人の参加は未定なるも、まず不参加と覚えてもらつて差支えない(4)随員、日程等は未定なるも、代表団のサイズは小さいものになる(国ひん第二の接遇基準たる15名より少い)、と述べるとともに、本件についての発表は17日夕刻または18日に行なわれるべく、発表ぶりについては後刻発表要領決定次第連絡すべき旨申越した。とりあえず。

(了)

(米北1課へ軍手交済 18日09:20)

外務省

大政事外(電) 務典房  
 次次 典房  
 臣官官審審長長  
 秘書人電厚計  
 書文会營給

調査長 参企析調  
 領移長 参領旅査移

ア 参地中東  
 長 北東西  
 米 参北北保  
 中南審 参一  
 欧 参西東洋  
 長 西東

近ア長 参書近ア  
 経 次総経国資  
 長 参質統国  
 経協長 参政技一理  
 条 国企二  
 長 参条協規  
 国 参政経科  
 長 参軍社專  
 情 参道内外  
 長 参一

( 部の内 号) 注意

電信写

総番号(TA) 19342 主管  
 72年4月17日 18時54分 米 国 発 着  
 72年4月18日 09時08分 本 省 着 米北

外務大臣殿 牛場(大) 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ返かん式典米側出席者

第15/5号 極秘 至急

(限定配布)

往電第15/4号に關し

冒頭往電の連絡の際、エリクソンよりアグニュー副大統領は今回訪日の機会に韓国及び南ヴィエトナムをも訪問することが内定したところ、これは目下の政治状況にかんがみ行われた決定であり、内政的にもセンシティブな事項であるので、その発表は若干遅れることとなるべく、この旨は東京にても外務省へ連絡したはずなるも、本件が部外にもれざるようしん重に配慮ありたいとの連絡があつた。

(了)

外務省

大政事外(電) 務典房  
 次次 典房  
 臣官官審審長長  
 秘書人電厚計  
 書文会營給

調査長 参企析調  
 領移長 参領旅査移

ア 参地中東  
 長 北東西  
 米 参北北保  
 中南審 参一  
 欧 参西東洋  
 長 西東

近ア長 参書近ア  
 経 次総経国資  
 長 参質統国  
 経協長 参政技一理  
 条 国企二  
 長 参条協規  
 国 参政経科  
 長 参軍社專  
 情 参道内外  
 長 参一

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。✓
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大蔵省  
事務次官  
典房  
長官  
審議官  
長官  
計  
議官  
電  
報  
長  
官  
給  
付  
書  
文  
書

調査長  
参  
議  
長  
領  
事  
長  
移  
長

ア  
長  
参  
議  
長  
中  
南  
番  
歐  
長

近  
ア  
長  
参  
議  
長  
経  
経  
協  
長  
長  
条  
協  
規  
長  
国  
参  
政  
経  
科  
長  
軍  
社  
専  
参  
道  
内  
外  
長  
参  
一  
二

総番号(TA) 19338  
72年 月 17日 18時40分 米 国 発着  
72年 4月 18日 08時47分 本 省 着 米北1

外務大臣殿 牛場 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ返かん式典米側出席者

第1516号 略 大至急

往電第1514号に關し

本件米側発表は17日には行なわれなかつた。

(丁)

(米北1へ写手交済、18日09:20)

外務省

秘

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印) 秘 無期限	符号表示 暗 略 平 第 897 号	総第 0418 117 昭和 年 月 日 時 分 発 47.4.18 18.23
大至急 (至急) 普通・LTF		発電係

大臣 牛場 大使 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 北米才一課	主管局部課(室)名 米北1 提案 昭和 年 月 日 47.4.18 提案者 電話番号 佐藤 2464
---	------------------------------	---

協議先  
儀典長 情報文化局長  
儀典官 報道課長

在米牛場 大使 臨時代理大使  
総領事 代理 あて 福田 大臣 発

電報 在 大使 臨時代理大使  
総領事 代理 あて

件名  
アケニ2一副大統領の訪米。

貴電中1516号に關し、

2. 18日在京米大使館からの通報によれば、

米側は貴地経由19日午前11時に発表す

る由につき、我々において19日夕刻、20日

午前1時(当地経由)米のエンバゴークスで

漢

電

(※印欄内は電信課記入)

(昭和四二・七一改正)

GB-1

→ 下記の官房長官談話を発表する旨に付、左と  
末側へ通報ありぬ。

今般 アグニュー米副大統領がわが国の  
招待をうけてニクソン大統領の名代として、  
5月15日の沖縄復帰記念式典に参列するた  
め、わが国に於て、米日友好関係にあること  
を新日することとなり、同副大統領の参  
列は日米友好関係を一層促進する上で、  
誠に有難義かつ時宜にかなったものであり、政  
府としては同副大統領一行の来日を  
心より歓迎する次第であり、所要の接遇  
準備をすすめてまいるに。

なお滞日期間は5月12日から16日ま  
での5日間であるが、5月15日の式典参列  
以外の詳細日程は未定である。

よ、なお、末側発表内容確認の上結果回  
電ありぬ。

GB-3

外務省

外務省電信案 (分頁)

機密表示 (極秘・秘の朱印)	符号表示 暗 略 平	総第 0418 138 号
電信課長 代 印	第 899 号	昭和 47 年 4 月 19 日
大至急・至急 普通・LTF	発電係	(5)
大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官 房 長	主管 アメリカ局長 ① 参事官 北米第一課長	主管局部課 (室) 名 中 外 課 提案 昭和 47 年 4 月 17 日 起案者 電話番号 Z12 2466
協賛先 甲 儀典官 乙 儀典官	儀典官 長 官	アチー長 情道
在 報	大使 臨時代理大使 総領事 代理	あて 外務大臣 発
電 報	大使 臨時代理大使 総領事 代理	あて
件名 アグニュー米副大統領の沖縄復帰記念式典出席		
1. 17日 在東京米 参事官は 橋本 参事官		
と参行、5月15日の沖縄復帰記念式典には		
アグニュー米副大統領の参列は 橋本 参事官		
の参行を 通報ありぬ。		
(1) (副大統領の) 日程は 次通りの由。		

漢  
字

(※印欄内は電信課記入)

(昭和四二七一改正)

GB-1

5月12日(金) 東京着)

15日(日) 千葉市着)

16日(月) ソウル向け船日)

17日(火) ソウル発 釜山着

釜山滞在後、再行して帰国途程に於て

(2) 6月4日発着予定のソウルは 未定有部時向 4月17日

の18日に発行予定 <sup>の由。</sup> (身体的な理由を以て)

改定。 (有部に通報済み)

~~貴国に滞在する予定あり。~~

又、この点に対し、貴国より副大臣宛、ソウル、釜山、

釜山に於て12月21日 日弁明と12月21日ソウルにて

予定の12月21日 未定有部時 承認の旨を述べ、

ソウルに於て12月21日、貴国は 両国の滞在日

程を2週間と認め、又上記(2)の発表

に於て12月 船山に於ては、発表後 数日

経過後に12月21日に発表の予定ありと答へ、

貴国に於て、責任田政府に於て、副大臣宛、

の 和国に於て、7月1日ソウルに

3. 7月1日 貴国に於て上記2.の趣旨を述べ、日弁明

は、貴国に於て12月21日、ソウルに於て12月21日

と12月21日ソウルの日程に於て、貴国に於て12月21日

所以を十分説明の上、2月21日 ソウルに於て(2)

申し渡すこと、5日 回答あり

△ 貴国に於て12月21日 申し渡すことあり

3. 北の方として、現下のサイゴン情勢  
 には ~~金田~~ アグニュー副大統領の  
 日本への来訪途、サイゴンに立寄りること  
 した理由、同副大統領の言動とサイゴン  
 へ立寄りをする理由 ~~（意訳）~~ ~~（意訳）~~  
~~（意訳）~~ ~~（意訳）~~ ~~（意訳）~~  
~~（意訳）~~ ~~（意訳）~~ ~~（意訳）~~  
~~（意訳）~~ ~~（意訳）~~ ~~（意訳）~~  
~~（意訳）~~ ~~（意訳）~~ ~~（意訳）~~  
 正式に菅首相に中入を促すこと  
 こと、可成り早急に見る電文を打つ。

目的は、サイゴン情勢の急変に備え、米側の内部事情を打し、可成り早急に見る電文を打つ。

( 部の内 号 ) 注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

極秘

電信写

総番号(TA) 19609  
 72年4月18日21時00分 米 国 発  
 72年4月19日12時01分 本 省 着 米局長

外務大臣殿 午場 大使 臨時代理大使 総領事 代理

(部内連絡)

極秘 至急 (ゆう先処理)

貴電米北/第899号に関し  
 現在のサイゴン情勢は訪ソともからみ、米国におい  
 てニクソン政権にとって最初の外交上の試練ともいうべき  
 極めて深刻な状況を作り出した大問題として米政府はこれ  
 が対策にふ心しつつあり、アグニュー副大統領の訪越も米  
 政府にとって極めて重大な政策決定の一つとして検討され  
 来たことは想ぞうに難しく、かたがた米政府高官の外  
 国訪問はあくまで米政府の決定事項であるとの考え方もあ  
 るべく、この際わが国よりサイゴン立寄り取止めを正式に  
 申入れることは米政府をいちじるしく刺激することは必至  
 であり、本使としては絶対に行うべきでないと思料する。  
 しかしながら目下のわが国の状況をふまえた冒頭貴電3。  
 の本省の御懸念にもかんがみ、とりあえずオオカワラ公使  
 をしてグリーン次官補に対し内々に米側の内部事情を打し  
 かせしめおいたところ、/8日夕刻先方より当方の懸念の  
 指摘は米側もアプリーシートするところにて、すでにホ

- 大政(外)外儀(官) 務務、典房 次次 臣官官審審長長 儀(人)厚計 書文会営給
- 調査長 参企析調 領移長 参領旅査移
- 参地中東 北東西 参北保 参一 参西東洋 西東
- 近ア長 参書近ア 次総経国資 源 長 参貿統 参政技一理 国企二 参条協規 参政経科 長 軍社専 内外 参一



注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

ホワイトハウスにも十分伝え、最高レベルでしん重検討中であり、目下のところサイゴン立寄り取止めの結論が出るのはいい得ないが、検討の結果については速やかにお知らせすべき旨連絡越した。ついては先方より何分のリアクシヨンを得るまでわが方が何らかの措置をとることは差ひかえられるようお願いする。

なお、本件訪越計画はヴィエトナム情勢如何によつても中止される可能性を含んでいる由であるが、グリーン次官補より本件訪問計画の存在が外部にもれることは日米関係上極めてエンバラシングな事態を招くので、ろうえいなきよう日本政府の特段の配慮方特に要望があつたので右十分御配慮願いたい。

(了)

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 18608  
 72年 4月 18日 21時 05分 米 国 13 主管  
 72年 4月 19日 11時 57分 本 省 13 発着  
 外務大臣殿 14時 大使 臨時代理大使 総領事 代理

アグニュー副大統領の訪日

第154/号 略 至急

貴電米北/第897号に関し、

冒頭貴電の趣旨を米側に伝達しおいたところ、先方は官房長官談話の内容に謝意を述べるとともに、日本側の発表の取り進め振りにつき異存なき旨述べた。/9日午前//時(当地时间)に当地で発表される米側発表ぶり別電の通り

(了)

大政事外外儀管  
 務務 典房  
 次次  
 臣官官審審長長  
 儀総入電厚計  
 書文会管給

調査長  
 参企折調  
 参領旅査移

参地中東  
 長 北東西  
 参北北保  
 参一  
 参西東洋  
 長 西東

近  
 参書近ア  
 長 総 次総経国資  
 長 参質統国  
 参政技一理  
 長 協 長 国企二  
 参条協規  
 長 国 参政経科  
 長 参 国社専  
 参 道内外  
 長 参一

秘

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政事外外儀官  
務務 典房  
次次  
臣官官審審長長  
儀総人電厚計  
書文会営給

調査長  
領移長  
参企折調  
参領旅査移

ア 参地中東  
長 北東西  
米長 参北北保  
中 参一二  
南 参西東洋  
歐 参西東  
長 西東

近 参書近ア  
経 次総経国  
長 参官統三  
経 参政技一理  
協 参条協規  
長 参条協規  
国 参政経科  
専 参道内外  
長 参一二  
文 参一二

総番号(TA) 19670 主管  
72年4月18日21時05分 米国 発  
72年4月19日12時04分 本省 着 米北

外務大臣殿 牛場 大使 臨時代理大使 総領事 代理

37=2-副大統領の訪日  
ヲ1542号 平  
統電ヲ1541号 別電

THE PRESIDENT HAS ASKED THE VICE PRESIDENT TO ACT AS HIS PERSONAL REPRESENTATIVE AT THE OKINAWA REVERSION DAY CEREMONY IN TOKYO ON MAY 15. AS YOU KNOW, THE PRESIDENT ATTACHED GREAT IMPORTANCE TO THIS HISTORIC EVENT MARKING THE TRANSFER OF THE ADMINISTRATIVE AUTHORITY OVER THE RYUKYU ISLANDS FROM THE GOVERNMENT OF THE UNITED STATES TO THE GOVERNMENT OF JAPAN.

IN ADDITION TO THE VICE PRESIDENT, THE OFFICIAL DELEGATION AT THE CEREMONY MAY 15 WILL CONSIST OF OUR AMBASSADOR TO JAPAN, MR. ROBERT S. INGERSOL

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

AND OUR HIGH COMMISSIONER OF THE RYUKYU ISLANDS, LT. GENERAL JAMES B. LAMPERT. THE DETAILS OF THE VICE PRESIDENT'S SCHEDULES IN JAPAN WILL BE ANNOUNCED LATER. THE VICE PRESIDENTS VISIT WILL BE OF REASONABLY BRIEF DURATION, HOWEVER, IN VIEW OF THE FACT THAT THE PRESIDENT WISHES TO CONSULT WITH HIM IN WASHINGTON BEFORE THE PRESIDENT DEPARTS FOR MOSCOW ON MAY 20.

①

外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印) <b>極秘</b>	符号表示 暗 略 平 第 919 号	総第 0419-153-001 号 昭和 47 年 4 月 19 日 19 時 18 分 発
大至急・至急・普通・LTF		発電係 平

夫 臣 大臣秘書官 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 北米第一課長	主管局部課(室)名 米比1. 送察 昭和 47 年 4 月 18 日 起案者 天江 電話番号 2466
--	-------------------------------	--

協議先 アジア局長 前課長	儀典長 情報文化局長 報道課長
---------------------	-----------------------

在米比 大使 臨時代理大使  
総領事 代理 米比 事務 大臣 発

電報 在 大使 臨時代理大使  
総領事 代理 米比

件名 アコム- 副大統領の訪問

住電米比1. 才 899 子 1=1 句し.  
北米=課長に送付、米比 (電話中1542号) (同文)

1. 19日 在京米比より ~~送付~~ 発表文を于て米比の  
にて、米比より、在米比に於て、米比に於て、  
と更に、在米比に於て、米比に於て、米比に於て、

(1) 訪問後 ソウル 及び サコンに 送付する件につき、  
特に サコンに於て、日本側より、エビラススナリスと

漢

電信課長

写 済

この事情も加えて、今回の発表は  
この訪問先には全くなかった。またサコン  
と等しいことは、副大統領の離任後、即ち  
ソウル滞在中に発表することになる。  
(2) 米比、ソウル、サコンに送付する前に  
部外にも知らせと折角の苦心を述べた。  
あつた。訪問のことも困難に感じ  
かゝることは、この件につき、米比側の協力に  
得た。米比  
副大統領の訪問につき、米比  
米比に送付する件につき、米比  
米比の場合には、日米政府と米比、米比  
計画は全く承認された。米比側は、米比  
米比に於て、米比に於て、米比に於て、  
米比に於て、米比に於て、米比に於て、

外務省電信案 (分類)

検索表示 (機密・秘密) 略 (平) 総第 0425 105-07  
 第 459 号 昭和 47 年 4 月 25 日 18 時 22 分  
 YYYVYY 大至急 (至急) 普通 LTF 発電機

主官 儀典官 儀典官室  
 事務次官 儀典官  
 外務審議官 儀典官  
 外務審議官 儀典官  
 官房長 事務官  
 昭和 47 年 4 月 25 日  
 署名者 澤井 電話番号 2085

報道部長 北米一詳  
 の  
 大使 臨時代理大使  
 在米 総領事 代理 外務大臣発

大使 臨時代理大使  
 在米 総領事 代理 外務大臣発

件名 了副大統領の訪日 (発表文)  
 (別紙) 本件付電通 (北米一詳 (改訂))  
 往電第 899 号に閉し。  
 28日ア副大統領を國賓として接遇することにつき  
 閣議決定を行つた上、午前10時頃(當地時間)別電  
 のとおり発表を行つたこと致した。右につき  
 至急先方へ了承をとりつづつて結果同電ありたし。  
 (別紙) 本件1:21:21に在米大使館にも連絡あり。

手電第 899 号に閉し  
 本件付電通 (北米一詳 (改訂))  
 往電第 899 号に閉し

外務省電信案 (分類)

検索表示 (機密・秘密) 略 (平) 総第 0425 106-07  
 第 460 号 昭和 47 年 4 月 25 日 18 時 22 分  
 YYYVYY 大至急 (至急) 普通 LTF 発電機

主官 儀典官 儀典官室  
 事務次官 儀典官  
 外務審議官 儀典官  
 外務審議官 儀典官  
 官房長 事務官  
 昭和 47 年 4 月 25 日  
 署名者 澤井 電話番号 2085

報道部長 北米一詳  
 の  
 大使 臨時代理大使  
 在米 総領事 代理 外務大臣発

大使 臨時代理大使  
 在米 総領事 代理 外務大臣発

件名 了副大統領の訪日 (発表文)  
 往電第 899 号別電  
 アリカ合衆国副大統領スピロ・セネア・アグニエーラ下  
 (His Excellency Mr Spiro Theodore Agnew, Vice  
 President of the United States of America) は、  
 ソン大統領の名代として、5月15日の沖縄復帰式典に  
 出席するため、5月12日から同月16日まで、我が国を

手電第 899 号に閉し  
 本件付電通 (北米一詳 (改訂))  
 往電第 899 号に閉し

公式に訪問される。

政府は、同副大統領を国賓として接遇することを決定し、準備を進めている。

滞日中、アグニエー副大統領は、<sup>記念</sup>沖縄復帰式典  
に出席されるほか、天皇皇后両陛下に謁見され、  
また副大統領のため宮中午さんが催される予定で  
ある。副大統領はさらに佐藤総理大臣と  
会談を行われ<sup>また</sup>副~~副~~大統領のため総理大臣  
~~朝~~による晩さんが催される。

同副大統領の来日は、日本、米両国間の伝統的  
親善関係を一段と深めるもので、政府と国民は  
心からこれを<sup>歓迎</sup>歓迎するものである。

4255 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印) <b>秘</b> 無期限	符号表示 暗 <b>略</b> 平	総第 0426 186-04
第 970号	昭和 47 年 4 月 26 日 18 時 50 分	
大至急・至急・普通・LTF		発電係

大臣 田中 秀三 政務次官 事務次官 法務外務審判官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 北米第一課長	主管局部課 (室) 名 北米 起案 昭和 47 年 4 月 25 日 起案者 天江 電話番号 2466
---	-------------------------------	--

協議先  
儀典長  
儀典官

在米 大使 臨時代理大使  
在 米岡 牛場 総領事 代理 外務 大臣 発

電報 在 大使 臨時代理大使  
報 総領事 代理 外務 大臣 発

件名  
AT=2-副大統領の訪日日程

AT=2-副大統領訪日日程については、大要次の如き  
試案を中心に関係各方面と協議中につき、御参  
考まで。

5月12日 午後到着

13日 午前 総理との会談、昼 天皇  
午後 本大臣の書院への上り 住訪  
より参議の下り

電信課  
5/1  
4/16  
云江君

(捺印欄内は電信課記入)

(昭和四二・七一改正)

GB-1

✓ 陛下御見及び宮中午餐 (ポーク・スーツ)
夜 総理晚餐 (ブランク・タイ)
14日 ゴルフ 又は ドライフ
15日 午前 沖繩 <del>連</del> 記念式典
昼 日米協会主催午餐、午後 記者 (帰帰 視察)
公見、晩 沖繩 <del>連</del> 記念式典 (北アジアン)
16日 午前 出発 (視 副大統領主催 晩餐)

GB-3

外務省

大政事外外儀官  
 務務 典房  
 次次  
 臣官官審審長長  
 儀総人電厚計  
 書文会營給

調査長  
 参企析調  
 領移長  
 参領旅査移

ア 参地中東  
 長 北東西  
 米 参北北保  
 中南審  
 参一  
 欧 参西東洋  
 長 西東

近ア長  
 参書近ア  
 経 次総経国資  
 長 参質統国  
 協 参政技一理  
 長 参条協規  
 国 参政経科  
 長 参道内外  
 文 参一

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 19820 主管  
 72年4月19日20時40分 米 国 発  
 72年4月20日10時43分 本 省 着 米北1

外務大臣殿 牛場 大使 臨時代理大使 総領事 代理

アグニム一副大統領の訪日

第1553号 平

往電第1542号に関し

ホワイト・ハウスは19日午前11時冒頭往電の通りの発表を行なった。

(了)

外務省

天正エムスミ

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 21903 主管  
 72年5月02日21時10分 米 国 発  
 72年5月03日10時18分 本 省 着 米北1

外務大臣殿 牛場 大使 臨時代理大使 総領事 代理

アグニム一副大統領の訪日

第1690号 略 至急

貴電米北/第9/9号に関し。

2日先方の求めにより、ヤマザキ(サトウ同席)がアグニム一副大統領の側近ゾーマー(ARTHUR J. SOHMER, ADMINISTRATIVE ASSISTANT)及び、ダン(BRIG GEN. JOHN M. DUNN, 安全保障担当補さ官)の両名(いずれも今次訪日に同行)とこんだんしたところ、先方の述べたところの内注目すべき点次のとおり。

1. アグニム一副大統領は日本との関係を極めて重視しており、今次訪日も日米双方にとり極めて重要なものと考えている。

2. てんのうへい下、サトウ総理、貴大臣とお会い出来ることなど、これまでの日本側の各種アレンジメントに感謝している。大統領は1日を東京外へ旅行し、(できれば車旅行がのぞましい)じゆんずいに日本的なふう物や農村をみることにあててることを希望しており。(オムフ

外務省

大政事外外儀官  
 務務 典房  
 次次  
 臣官官審審長長  
 儀総人電厚計  
 書文会營給

調査長  
 参企析調  
 領移長  
 参領旅査移

ア 参地中東  
 長 北東西  
 米 参北北保  
 中南審  
 参一  
 欧 参西東洋  
 長 西東

近ア長  
 参書近ア  
 経 次総経国資  
 長 参質統国  
 協 参政技一理  
 長 参条協規  
 国 参政経科  
 長 参道内外  
 文 参一

秘

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

はのぞまない) かつ出来るだけ多くの人達と話す機会をもつことを希望している。 ついては右旅行の際にも日本政府の関係者(外務省幹部等)の随行を得て話し合えるチャンスを作つていただければありがたいと思う。

3. 副大統領は真にフランクな人物であり、あらゆる機会にそつ直な話し合いを期待している。 もつとも日本のプレス熱心さについてはよくきいており、公的発言については十分注意するつもりである(ヴェトナム、中国の安全保障等)

4. 当方より今回の訪日を成功させるためにはヴェトナム立寄り出来るだけさけてほしい旨、また( ) どうしてもやむを得ざる場合には少くともハワイ、グアム等米国内に1日立寄り、全く別の旅行であるとの体裁をとつてほしい旨強く要望し、先方も日本にとつてのことの重要性は理解した旨述べていた。 なお、先方より韓国立寄りの話は全くない旨述べていた。

5. なお1968年のキャンペーンの当時、アグニュー副大統領が、ハワイに向う機中でホルテイモア・サンの日系記者をFAT JAPとよんだことはラスベガスへはく

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

の後のくつろいだ機中での<sup>か</sup>わされたアグニュー一流のじょう談であり。(記者がアグニューをFAT GREEKといいかえた由) 全く他意がなく、同席の記者連中もこのことは十分理解していたが、全く思いがけず一部紙に報道されたものである。

(了)



注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

秘

電信写

大政(外)外(機)官  
務務 典房  
次次  
臣官官審審長長  
(機)終入(電)厚計  
書文会営給

調査長  
領移長  
参企析調  
参領旅査移

参地中東  
長 北(東)西  
参北北保  
参一  
参西東洋  
長 西東

近ア長  
経 参書近ア  
次総経国資  
長 参貿統  
経協長 参政技一理  
参 国  
参条協規  
長 参政経科  
国 参社專  
長 参道内外  
情 参一  
文長

総番号(TA) 25757  
72年 5月 23日 19時 30分 主管  
72年 5月 24日 09時 59分 本省 発着 北北  
外務大臣殿 牛場(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

アグニ副大統領訪日

第1996号 略

往電第1690号に関し

23日国務省日本部レヴィンよりムラギに対し、次のとおり連絡越した(なお、ダン補さ官もヤマザキに対し同様の趣旨を述べた)。

1、アグニ副大統領は先般の訪日における日本側の接遇振りを深く多とし、帰国後直ちに日本側がいかに友好的であり、また各種準備がすぐれたものであつたかを強調する報告書を作成の上大統領に提出し、大統領は同報告書を読了済みである。

2、またアグニ副大統領随行者は、先般の訪日に関する評価の会議を行なつたが、全員日本側のアレンジメントに強く印象づけられたとの意見を述べ、返かん式典を始めとする諸般の行事に対する日本側の準備振りに何等の批判もなかつた。

(了)